

人や地域と繋がる学校教育



「かみ小国和紙プロジェクト」の「かみ」は上と紙の意味です。小国和紙産地を校区にもち、小国和紙生産組合さんが校区にある地の利を生かして、小国和紙とかかわった学習の実践を重ねています。1人1鉢の花が学校の玄関を飾ります。

「復興うちわ」として小国和紙の手作りうちわを被災地や長岡市内に贈りました。中越大地震と中越沖地震の地震体験を覚えている子どもが少なくなりましたが、地域の代表として当時の恩返しとしての取組です。和紙の風はとても涼しいです。

連載 げっかんきふはくしょ 月刊寄付白書 あなたの寄付は義援金? 支援金?

もうすぐ東日本大震災から2年…この震災で話題になった「義援金」と「支援金」の違いをあなたはご存じですか?

「義援金」とは、日本赤十字社、中央共同募金会等が集める被災者の生活支援のために使われるお見舞いのお金のことで、別途、義援金受付団体を中心に作られる義援金配分割合決定委員会の決定により、自治体を通じて被災者一人ひとりに配られるお金のことです。

一方「支援金」とは、被災者支援や被災地復旧・復興にあたるボランティア団体やNPOの活動に生かされるお金のことで、一般的には被災者が直接受け取るものではありません。医療支援や物資配布、炊き出しなどに使われます。

東日本大震災への寄附総額は、義援金・支援金合わせて約6,000億円(『寄付白書2012』※)となり、阪神淡路大震災時の寄付1,791億円の約3倍です。

では、長岡市内ではどうだったのでしょうか。

市役所には日本赤十字社へ義援金として寄付された3224万2780円と、長岡市に避難してこられた方々の生活再建資金として使われた「東日本大震災避難者支援寄付金」2189万2091円の合計5413万4871円が集まりました。(本庁、支所合計。平成25年1月24日現在)。

一方、民間の組織である東日本大震災ボランティアバックアップセンターへの寄付(支援金)は602万9007円で、これはボランティアセンターの開設や運営、被災者間交流のために使われました。

直接被災者の手元に届く義援金も、活動団体を通して被災者の生活を支える支援金もどちらも欠かすことのできない寄付です。

※『寄付白書2012』(日本ファンドレイジング協会編)日本における寄付の現状などを示している。東日本大震災への寄付金は個人・法人含む、日本と世界各国からの寄付の推計。



● 義援金の流れ: 基本的に全額が被災者に現金として渡る。(被災者に渡るまでの期間は長い)
● 支援金の流れ: NPOなどの復興支援活動に使われる。(被災者に渡るまでの期間は短い)

3月は 1日店主 もーれ! 長岡 開催です!

3.22 金 開始/19:00~
場所/ながお市民協働センター(予定)

お待ちしました!

詳しくは3月らこらマでご案内します。お楽しみに!
※2月のもーれはお休みします。

編集後記
今回取材させて頂いた地域や団体は、ただ授業の手伝いをするだけでなく、子どもたちから得るものがあり、お互いメリットのある取組でした。地域での交流が少なくなってきたと感じる現代、昔はふれあいを通して学ぶことができた“地域の歴史や文化”を知る上でも、このような地域教育は大切だと感じます。また、市内各小学校でも地域の方に、読み聞かせや登下校時の見回りボランティア等を募集しています。団体だけでなく個人でも、子どもたちと触れ合う場を通して地域の良さを伝えて行けたらますます素敵な長岡になりそうですね。

らこらマ FREE 2013.2.10 (vol.11)

【発行】ながお市民協働センター
市民協働センターPRオープニングイベント実行委員会
〒940-8501 長岡市大手通1丁目4番地10
シティホールプラザアオーレ長岡 西棟3F ながお市民協働センター
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900
Mail. kyodo-c@ao-re.jp URL. http://nkyod.org

アオーレ長岡での活動の効果と期待すること

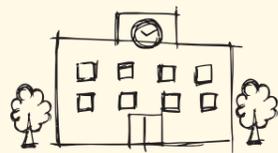
小国和紙がアオーレ長岡の内装に使われるのであれば、学校として何か関わる活動をしたい。この素朴な願いが、上小国小学校がアオーレ長岡で様々な活動することになったきっかけです。上小国小学校は、「森本千絵と100人の仲間たち」としての参加後も、義援米をナカドマで販売したり、「復興うちわ教室」をテラスで行ったりしました。その「ご縁」が次の活動になっています。

今年、小回りの効く学校が実践を行ったと思います。その実践をながお市民協働センターのスタッフが、再び長岡市内の学校に紹介する、この循環が始動すると様々な学校での取組が進むと考えます。ここに期待しています。

来てみると、学校の中だけでは見えない様々な人の動きがおもしろく、思わず長居をしたくなるそんな不思議な魅力をもつアオーレ長岡です。

長岡市立上小国小学校 校長 安井靖子先生

平成24年度の各地域・団体 取り組み事例紹介



× NAGAOKA

学校教育と地域教育

今回紹介する事例の多くは、総合的な学習の一環で行われています。総合的な学習は、平成12年より段階的に進められてきたもので、近年の社会の変化をふまえ、子ども達が自ら学び・考える力などの全人的な「生きる力」の育成をめざし、教科などの枠を越えた横断的・総合的な学習を行うために生まれました。長岡市内でも多くの

学校がさまざまな取り組みを行っています。子ども達が、長岡の魅力や再確認し地域に誇りを持つためには、座学だけでは教えられないことも多いと思います。身近な地域の人や多世代から学ぶということは、学校だけでは難しいこともあります。ながおか市民協働センターでは、地域づくりを通して、人材育成を行う皆様を紹介します。

× SEKIHARA 関原地域



NPO法人
関原里山・ぬかやま会
布川清八さん

関原の里山を整備し、自然環境保全を行っています。

6年前から関原小学校の4年生をぬかやまに招いて、自然体験教室を行っています。山は危険と隣り合わせです。近年子どもたちは、山に近寄ることすらしません。本来、危険だから山は入らないのではなく、自然を体感し山から危険を回避するすべを学んで来たのが、私たち人間です。かつて私たちが子どもの頃、歳の差も関係なく幼児から中学生まで一緒に裏山を秘密基地にしていた頃のように、子どもたちがここに来て、人間関係や自然との関係を感じてもらえることを目指しています。学校では学べない「生き抜く力」を養うには、やはり地域の力も大切だと感じ、今私たちができることを少しずつ行っています。



関係を感じてもらえることを目指しています。学校では学べない「生き抜く力」を養うには、やはり地域の力も大切だと感じ、今私たちができることを少しずつ行っています。

× OGUNI 小国地域



小国武石集落
相波公英さん

集落の将来像を住民同士で検討し、取り組んでいます。

集落計画を行う事をきっかけに、中学生の総合学習の受入を行いました。はじめは半信半疑でしたが、そんな心配は全くありませんでした。集落に来て人的交流を通して、小国地域に興味を持ってもらう事や活動を通して沢山の思い出を作ってもらう事で、いい体験が出来たのではないのでしょうか。それと同時に、生徒が本気になり、今できることをやってくれたおかげで、集落にもいい刺激になりました。ふれあいを通してお金ではない心の財産を知り蓄えることが大切ですね。そうして将来都会に出ても故郷を思い、またここに帰ってくることを期待します。このきっかけと支援を行ってくれた地域復興支援員の存在は大きいですね。



× KAWAGUCHI 川口地域



NPO法人
暮らしサポート越後川口・
川口をまじめに考える会
小宮山芳治さん

川口地域で共に支え合い、元気なまちをつくらせていきます。



今年度の川口中学校総合学習では、「地域交通を考える」「きずなを残す」「地域産業を学ぶ」「地域の過疎、高齢化を知る」の4つのテーマに分かれて、それぞれにスタッフが付き、中学生と一緒に地域について学びました。

中学校の総合学習を行うにあたり、何を教えれば生徒たちの為になるのか、本当のところわかりませんでした。私たちスタッフは、とにかく川口

地域を知って、興味を持ってもらいたい、川口地域を好きになってもらいたい、そして少しでも将来の川口地域のことを考えてもらいたいという思いで、今年度の総合学習に取り組みました。グループごとにテーマは違うものの中学生のみんなに、川口地域の良さを伝え、印象づけたのではないかと、総合学習に携わったメンバー全員が思っています。

今後も川口地域のことを伝える機会があれば中学生に限らず、いろいろな人たちとかかわり、ふるさとを「愛さずには、いられない」活動を続けて行きたいと思っています。

今回の総合学習では中学生にパワーや元気をもらい、私たちがたくさんの方の事を学んだ本当に良い総合学習だったと思います。



学習をサポートしたみなさん!

× NPO 各団体

NPO法人
多世代交流館になコーナ
徳高加津美さん

子育て世代を中心に、多世代交流の場を提供しています。

育つ喜びや、育てる幸せを感じてもらえるように中学生向けに「次代の親育成講座」を行いました。将来親になる子ども達が子育て中の親子との触れあいを通して、命のつながりを感じ、一人ひとりが大切な存在である自己肯定感の意識向上が見られました。これからもこのような取組が一層広がることを願っています。



NPO法人
UNE
高桑翔子さん

農業体験を通じた人材育成をしています。

子どもたちが、のびのびと自然に触れながら農業体験をすることで、作物を育てることの大変さとそれに勝る喜びやおもしろさを感じてほしいと活動をしています。農業は意外にも算数や理科の知識が必要です。野菜の世話をしたり、採りたての野菜を味わったりしながら学校での学習の実践の場となるような活動を企画していきます。



NPO法人
醸造の町根田屋町おこしの会
平沢政明さん

長岡市根田屋地域で、文化財維持活動やまちおこしを行っています。

NPOのサポーターとして長岡造形大学の学生たちは「こへび隊」を組織し、地域の小学生と一緒に「ミニ鍍絵」や「灯籠」を作って展示をしたり、地域住民と一緒に公園やサフラン酒敷地の草取りボランティアを行っています。子どもたちや住民の創造力を引き出しながら、根田屋の魅力や魅力を伝える為にがんばっている、この若い力は、町おこしの活動に欠かせない存在です。



長岡市教育委員
市民協働ネットワーク長岡
代表理事
羽賀友信さん

子どもたちが育つ可能性

子ども達が育つには、3つの要素が必要です。1つ目は「感じる力」です。これは心が動いたときだけ認識ができる力で、世の中の広がりや心は動いた分の広がりになります。また好奇心でもあります。これを育てるのは家庭の大きな役割です。2つ目は「考える力」です。これは感じた材料を論理的に整理し組み立てる力で、これを育てるのは学校の役割です。

3つ目は「行動する力」です。考えて導き出した論理を行動に移す決断する力です。行動した時に、自分の人格になります。これらを繰り返し、子どもは成長を続けます。学校教育だけではなく、社会教育が連携することによって「感じ」「考え」「行動する」学びの場が出来ます。この実践には地域や市民による協働の枠組みが大きな力となります。